

社会運動論研究会

代表者：Ouyang Shanshan（先端研究科一貫制博士課程6回生）

研究会メンバー：YANG Yushuang（社会学研究科博士後期課程3回生）、Qu Honglin（先端研究科一貫制博士課程5回生）、峯桃香（社会学研究科博士後期課程1回生）

研究会の目的

本研究会は社会運動の理論と事例研究を通じて、「インターセクショナリティ（intersectionality）」である分析理論の概念、起源、運動の中での事例研究、またはその理論についての批判に関する議論を検討することを目的とする。インターセクショナリティとは、人種やジェンダー、性的指向、階級、国籍、障害などの属性が交差したときに起こる差別や不利益を理解する枠組みである。研究会における議論を通じて、マイノリティ運動内部における覇権的文化の生産メカニズムがインターセクショナリティの視点から明らかにされることを認識する。また、本研究会では、英語文献の講読能力と英語で研究発表を行うことを強化している。

開催内容

★論文講読会や研究発表会 7回 運営計画会議を含む通算8回開催

運動論に関する文献・論文の輪読を行うことを活動の基本とし、担当メンバーがレジュメを作成し、発表した。各メンバー自身の研究事例の検討報告も行った。

研究成果と発表実績

【学会発表・査読あり】

○ Yushuang Yang, "How Emotion Cultures Affect Solidarity Building in the Chinese Online Feminist Movement," Alternative Futures and Popular Protest 2023 conference, The University of Manchester, the United Kingdom. June 12th, 2023.

○ OUYANG, Shanshan, "Accessing Rainbow Pride/Parade: The Inclusion and Exclusion of LGBTQ+ people with disabilities in LGBT Movements in Japan," Alternative Futures & Popular Protest 2023 conference, The University of Manchester, the United Kingdom. June 13th, 2023.

○ 峯桃香, 「戦後の女性が女性の戦争責任を考えるとということ：在野の女性史研究『銃後史ノート』の運動史／メディア史研究」, 日本オーラル・ヒストリー学会, 2023年11月12日

○ 峯桃香, 「女性解放思想が追及する女性の「戦争」加害 —1970年代の女性解放団体の動きに注目して—」, 関西社会学会 2023年5月13日

【論文・査読あり】

○ Yushuang Yang, 2023, "Appropriating the Propaganda Symbol in a Chinese Feminist Upsurge: The Construction of a Collective Identity on Social Media," Journal of the Asia-Japan Research Institute of Ritsumeikan University, Vol. 5, pp. 16-31.

○ 峯桃香, 「「銃後女性」の「責任」の再発見 —『銃後史ノート』における葛藤と「自らへの問い」『戦争社会学研究』（2024掲載決定）